

平成 22 年度 日野市立図書館の
運営の状況に関する評価書
(平成 21 年度事業)

くらしの中に図書館を

—市民に役立ち、共に歩む図書館—

平成 22 年 9 月

日野市立図書館

1 はじめに

国は行政機関が行う政策を客観的かつ厳正に評価を行い、その結果を政策へ適切に反映を図るとともに、政策の評価に関する情報を公表し、効果的かつ効率的な行政の推進に資することなどを目的に、平成 14 年 4 月、「行政機関が行う政策の評価に関する法律」を施行しました。また、「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針」（平成 18 年 8 月 31 日、総務省）などでは、行政組織運営全般について、住民の意見を反映する仕組みを整えた上で、PDCA サイクル（※）に基づく、事務事業の検証を求めています。

日野市では、これら国の動きや第 4 次日野市基本構想・基本計画「日野いいプラン 2010 ともに創りあげるまち」に基づき、平成 16 年度に行政評価制度を導入しました。しかし、市全体の中での評価では、個別具体的な図書館運営に関する評価が上手く成されていないのが実情でした。

「これからの図書館像 地域を支える情報拠点をめざして」（平成 18 年 3 月、文部科学省 これからの図書館の在り方検討協力者会議）でも図書館サービスの評価を実施し、公表、活用することを示しています。さらに、平成 20 年に「図書館法」が改正され、図書館の運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めること。また、図書館奉仕に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該図書館の運営に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならないこととされました。

そのため、図書館では、平成 21 年 3 月 31 日に、「日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、平成 21 年度から図書館の運営状況に関する評価を開始しました。

※PDCA サイクルとは、計画（Plan）を実施（Do）し、評価（Check）して、改善（Act）に結びつけ、その結果を次の計画に生かす（フィードバック）プロセスをいいます。

2 評価の目的

図書館の取組事業の目標・手法・成果などをしっかりと把握した上で、図書館の運営の状況に関する評価を市民参画（図書館協議会）で実施することにより、取組事業を振り返り、そして、見直しを行い、効果的かつ効率的で、市民に信頼される図書館運営を推進するものです。さらに、市民にこれらの情報をありのままに公開することにより、「市民に開かれた図書館」にとどまらず、「市民とともに作り上げる図書館」を目指します。

3 図書館の現状

（1）施設

施設の名称	延べ床面積	現館の開館日	所在地	蔵書規模
中央図書館	2,220 m ²	昭和 48. 4. 28	豊田 2-49-2	251 千冊
移動図書館	1 台 (19 駐車場)	昭和 40. 9. 21	同上	35 千冊
高幡図書館	1,358 m ²	昭和 55. 5. 11	三沢 4-1-12	90 千冊
日野図書館	422 m ²	昭和 55. 5. 18	日野本町 7-5-14	46 千冊
多摩平図書館	856 m ²	平成 16. 4. 1	多摩平 2-9 多摩平の森ふれあい館 1 階	80 千冊
平山図書館	412 m ²	平成 20. 4. 5	平山 5-18-2 平山季重ふれあい館 1 階	55 千冊
市政図書室	140 m ²	昭和 52. 12. 1	神明 1-12-1 日野市役所 1 階	40 千冊
百草図書館	759 m ²	平成 2. 11. 16	百草 204-1 ガーデنبビュー石神 D2 階	72 千冊

※平成 22 年 4 月現在

（2）組織・職員

1 課 3 係（庶務整理・業務・奉仕）、6 分館

職員 39 人（うち司書 28 人）

（3）主な業務

- ・ 図書館資料の収集、整理及び保存
- ・ 個人貸出、団体貸出
- ・ 読書案内及び読書相談
- ・ レファレンス
- ・ 読書会、研究会、講習会、鑑賞会、映写会、展示会等の主催及び奨励
- ・ 館報その他の読書資料の発行及び頒布
- ・ 図書館資料の図書館間相互貸借

- ・市内の学校図書館への資料提供と協力
- ・地方行政資料の収集及び提供

4 図書館の評価方法

(1) 評価方法

評価は、評価を始めた第 23 期の図書館協議会からご意見をいただきながら、下記のような方法で行うことにしました。

- ① 各評価対象事業別に、各図書館担当者が 1 次評価を行い、図書館係長会に諮り、図書館としての自己評価表（案）を作成し、第 1 回図書館協議会に提出する。
- ② 自己評価表（案）にもとづく評価のまとめ（案）を第 2 回図書館協議会の開催の前に、各図書館協議会の委員に送付する。
- ③ 図書館協議会委員は、送付された図書館の評価のまとめ（案）と評価表（案）（以下「評価（案）」と略）を点検するとともに、第 2 回図書館協議会で意見などを述べる。
- ④ 図書館は出された図書館協議会委員の意見などに基づき委員長と協議して、修正を加えた「評価（案）」を各図書館協議会委員に送付する。この「評価（案）」に図書館協議会委員から、再度意見が出された場合は、再び委員長と協議し、「評価（案）」に反映させる。
- ⑤ 図書館協議会の意見を反映した評価を図書館評価報告書としてまとめ、9 月に開催される日野市教育委員会に報告する。
- ⑥ 図書館ホームページ及び各図書館で図書館評価報告書を市民に公表する。

(2) 評価を行う取組事業

「日野市立図書館基本計画」の重点的な取り組みや文部科学省が提示する「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準 平成 13 年 7 月 18 日文部科学省告示」（以下「望ましい基準」と略）から抽出した、下記の 6 つの取組事業について評価を行うこととします。

- ① すべての利用者への基本的なサービスの一層の向上を図ります（児童・青少年サービス）
- ② すべての利用者への基本的なサービスの一層の向上を図ります（成

人・高齢者サービス)

- ③ すべての利用者への基本的なサービスの一層の向上を図ります（障害者サービス）
- ④ 資料の選択・収集及び資料提供を核とする図書館の基本を大切にします
- ⑤ 時代に合わせて既存施設の改修を進めます
- ⑥ 関係機関との連携・協力の強化を図ります

さらに、評価終了後の第 23 期図書館協議会での意見により、本年度から以下を追加しました。

⑦各館での取り組み

(3) 評価表

評価表は、評価の目的である事務事業の振り返りと改善の道具であるという観点から、シンプルなものとし、今後、毎年度評価を重ねていく過程で、連続性を考慮した上、適宜見直しを図っていくこととしました。

評価表の各項目は下記のとおりです。

- ① 取組事業名：取組事業名、事業開始年度
- ② 取組事業の概要：事業目的、21 年度の事業目標と事業成果、事業の課題・問題点
- ③ 事業費の推移：事業費、人件費、特定財源、一般財源
- ④ 指標・コスト：活動指標（アウトプット）、成果指標（アウトカム）、単位コスト※成果指標の設定については今後の課題とする
- ⑤ 参考基準・数値：文科省基準・図書館専門委員会参考数値
- ⑥ 評価：事業目的に対する効果、事業の効率性、今後の方向性、評価意見等、次年度以降の取組み

5 評価の結果

図書館協議会からいただいた意見を反映した図書館の自己評価は、評価表 1～7 のとおりです。そして、表の後に、《評価のまとめ》及び《21 年度の特長》を加えました。

図書館事業評価表 21年度

事業No.	1
事業担当係	業務係・児童奉仕グループ
記入者氏名	菅野 尚美

1. 取組事業名

2010/9/13 10:35

取組事業名 (図書館基本計画から)	すべての利用者への基本的サービスの一層の向上を図ります (児童青少年サービス)	事業開始年度	昭和 40	年度
----------------------	--	--------	----------	----

2. 取組事業の概要

取組事業の概要(事業の対象者、内容を市民にも分かるように簡潔明解に記載)

事業の内容	「図書館基本計画」「日野市子ども読書活動推進計画」に基づきサービス、資料の充実に努める。 1 乳幼児サービス) ①乳幼児が本を手にとったり、読んだりしやすい工夫する。②乳幼児が集まる施設ではなし会の開催がスムーズに行われるよう図書館員がサポートする。③保育園・幼稚園への団体貸出を拡充④保護者・保育関係者からの読書に関する相談の受け付けや講座等を充実する。 2 児童サービス) ①児童の調べものに必要な資料を整える。特に、地域について調べる資料を図書館が作成する②児童への読み聞かせなど、子どもの読書にかかわる活動を引き続き支援する。③日本語を母語としない児童、海外帰国児童に外国語資料を提供する。 3 青少年へのサービス) ①図書のコナーを設け資料を充実させる。②青少年がコナーの運営に関わる機会を設ける。③資料・情報提供により、青少年の就業を支援する。
-------	--

事業目的(当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか)

・児童の読書離れが進む(児童登録率の低下)一方で児童図書の貸出冊数は増加。読む人は、一層多読となり、読まない人は全く読まないといった二極化を呈している。今後は、学校、児童関連施設、地域などと連携した子どもの読書活動を充実させる。

21年度の事業目標(どのような目標を設定したのか)	21年度の事業成果(当該年度の実績数値など)
①中央・高幡・多摩平・百草図書館で「おはなし会」を毎月1~3回行う ②「あたらしい本」(児童)を年1回以上発行する ③要望に応じて出張おはなし会・小学校訪問を行う ④夏休みジュニアスタッフ事業を行う ⑤日野宿発見隊こども発見隊事業を行う ⑥児童図書を充実する ⑦児童図書の貸出冊数を増やす ⑧ヤングスタッフ事業を行う(文部科学省補助金受託)	①「おはなし会」… 86回、のべ 2,018人 ②「あたらしい本」(児童)…1回発行、500部 ③出張おはなし会…30回 小学校訪問…15校40ヶ所 ④夏休みジュニアスタッフ事業… 参加延べ30人 ⑤日野宿発見隊こども発見隊… 2回 参加80人 ⑥児童図書の充実…年間受入冊数 6,730冊(年間除籍冊数 4,498冊)、蔵書冊数 154,812冊 ⑦児童図書の貸出冊数… 448,567冊(児童関連施設への移動図書館車による団体貸出し17,168冊合)他に保育園幼稚園への配本延べ34回1,580冊 学校への搬送業務延べ283回12,996冊 ⑧ヤングスタッフ事業 2講演会 リスト作成など

事業の課題・問題(事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します)

学校図書館支援・子ども読書活動推進用図書予算は年々減少傾向にあったが、前年度と同じ200万円。内訳は多摩平図書館ヤングコーナー用図書70万円、調べ学習・読書指導用図書115万円、幼稚園保育園用配本図書15万円。年々増加する小中学校からの貸出し依頼に充分答えられる蔵書構成を行うため、選書にはより一層力を注ぎ、出版社を招いての図書の展示会を開くなど内容を充分検討した上で購入を決定する。

3. 事業費の推移(円)

項 目		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成21年度事業費の 決算の内訳
支出	事業費	27,403,224	29,211,905	31,097,276	・嘱託職員報酬 ・図書費 ・学校図書館支援事業経費 ・子ども読書活動推進支援経費
	職員人件費(1人888万円)	79,032,000	78,144,000	76,368,000	
収入	国支出金			1,945,000	
	都支出金				
	使用料・手数料等(受益者負担額)				
	その他特定財源				
一般財源		106,435,224	107,355,905	105,520,276	
総事業費		106,435,224	107,355,905	107,465,276	
当該事業に要する 職員の業務量(人)		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成21年度課の職員数 (課長・臨時職員除く)
		8.9	8.8	8.6	38.5

4. 指標・コスト

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ (当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など)

区 分	活動量を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	児童図書貸出数	冊	435,500	440,000	448,800	20年度ベース	2%
実績値（B1）		冊	385,484	431,110	448,567	20年度ベース	4%
達成度（C1=B1／A1×100）		％	89	98	100	市民1人当たりのサービス経費（円）	
単位コスト	事業単価	円	276	249	240	事業費	614

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅱ (当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など)

区 分	活動量を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A2）	児童登録率	％	25.52	25.52	25.52	20年度へ－λ	0%
実績値（B2）		％	24.31	24.86	24.23	20年度へ－λ	－3%
達成度（C2＝B2／A2×100）		％	95	97	95		
単位コスト	事業単価	円	—	—	—		

成果指標(アウトカム)目標・実績 (当該事業の目的としている成果指標の目標や実績を数値で表します)

区 分	成果を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（D）	利用者満足度					20年度ベース	
実績値（E）						20年度ベース	
達成度（F＝E／D×100）		％					
単位コスト	事業単価	円					

5. 参考基準・数値

文部科学省基準・図書館専門委員会参考数値

○児童・青少年に対するサービスの充実に資するため、必要なスペースを確保するとともに、児童・青少年用図書の収集・提供、児童・青少年の読書活動を推進するための読み聞かせ等の実施、情報通信機器の整備等による新たな図書館サービスの提供、学校等の教育施設との連携の強化等に努めるものとする。

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☐ 限定的な効果があった	☒ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☐ やや効率が悪い	☒ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☒ 拡大・充実 ☐ 維持・継続	☐ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	評価意見等	・児童図書貸出冊数は年々増加しているが、児童登録率はやや減少した。 ・文部科学省の子ども読書応援プロジェクト・子ども読書地域スクラム事業を受託し、読書離れが懸念される青少年自らが、「薦めたい本の書評・選定・リスト作成・展示会」を行うとともに、著者の講演会を企画し、子ども読書活動を推進することができた。	
次年度以降の取組み		・「日野市立図書館基本計画」や「日野市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き青少年の読書活動を図書館が中心となって推進する。 ・平成22年度に策定する「第2次子ども読書活動推進計画」を基に、更に子どもの読書活動を推進する。また、計画の推進状況の把握、分析、検討をする。 ・学校搬送による図書館と学校のネットワークを更に充実させて、学校図書館支援センターを設立に向けた準備をする。	

図書館事業評価表 21年度

事業No.	2
事業担当係	業務係
記入者氏名	飯倉 直子

1. 取組事業名

2010/9/13 10:36

取組事業名 (図書館基本計画から)	すべての利用者への基本的サービスの一層の向上を図ります(成人・高齢者サービス)	事業開始年度	昭和40年度
----------------------	---	--------	--------

2. 取組事業の概要

取組事業の概要(事業の対象者、内容を市民にも分かるように簡潔明解に記載)

事業の内容	「図書館基本計画」により、成人・高齢者サービスの充実に努める。 ・成人サービス…①生活や仕事など、様々な解決を援助できる図書館を目指します。②地域の特性や施設の特徴、他施設との連携を活かした図書館サービスを展開します。③子ども連れで来館しても、利用しやすい環境を整備します。④次の世代に伝えるべき基本的資料を、日野市立図書館の保存対象とします。⑤ボランティアなど、図書館運営に関わる仕組みを作ります。 ・高齢者サービス…①高齢者の利用に適した図書館資料を増やします。②高齢者の居場所としての快適性を高めます。③来館の困難な高齢者には、資料の配達を行います。④高齢者の集まる施設との連携を進めます。⑤団塊世代、シルバー世代に図書館で活躍できる場を提供します。
-------	---

事業目的(当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか)

すべての市民が図書館サービスを受けられる態勢を整え、且つ、サービスを充実させ、図書館基本計画で掲げた基本理念である、『くらしの中に図書館を一市民に役立ち、共に歩む図書館』を実現してゆく。

21年度の事業目標(どのような目標を設定したのか)

- ①資料(図書・雑誌・視聴覚資料)を充実させ、貸出による資料提供を行う。
- ②資料相談や参考調査に応え、市民に役立つ資料・情報コーナーの設置を行う。
- ③書庫収蔵図書を選別し、必要な資料を保存する。
- ④地域の特性や施設の特徴、他施設との連携を活かした図書館サービスを展開する。
- ⑤ボランティアなど、図書館運営に関わる仕組みを作る。
- ⑥来館の困難な高齢者には、資料の配達を行う。

21年度の事業成果(当該年度の実績数値など)

- ①(※下記の数値について…図書は児童書を除き、雑誌とCD・ビデオ等は児童向けも含む)
*図書年間受入冊数 29,244冊(年間除籍冊数 42,659冊:③のため)、蔵書 583,191冊、購入雑誌…497タイトル CD・ビデオ等保有数…4,222点 *貸出…図書 1,244,088冊 CD・ビデオ等 17,763点 *成人利用登録者…34,752人 延べ利用者…476,182人
- ②参考調査・資料相談…5,190件 テーマ図書展示…33回
- ③書庫収蔵図書選別…旧平山図書館書庫に収蔵していた箱詰め状態の資料約3万冊を含めて、保存する資料を選別。
- ④日野宿発見隊、平山季重コーナー、ひの写真散歩展示
- ⑤ボランティア参加…資料の点訳・音訳、日野宿発見隊、ひの写真散歩、中央図書館環境美化、資料の宅配
- ⑥障害者宅配サービス…利用者数…66人 307回

事業の課題・問題(事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します)

・資料費の減額により、高額な資料や複本の購入は控えざるをえない。・建築が古い施設(中央・高幡・日野)について:①利用者用エレベーターが無いなど、バリアフリーになっていない。②スペースが狭く、十分な書架・机・座席が確保できない。③長時間滞在して閲覧・調べものをする利用者の休憩スペースが確保できない。④子どもが利用しやすい閲覧スペースが設置できない。⑤開架書架が不足しているため、資料を短期間で除架しなくてはならない。⑥開架から除架した資料の保存書庫も不足しているため、資料を充分保存できない。

3. 事業費の推移(円)

項 目		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成21年度事業費の 決算の内訳
支出	事業費	99,824,813	99,525,470	92,613,553	・嘱託職員報酬 ・新聞、雑誌、追録、 マイクロフィルム(消耗品費)
	職員人件費(1人888万円)	225,552,000	215,784,000	208,680,000	
収入	国支出金			4,406,519	・データベース使用料 ・図書費・視聴覚資料費 ・日野宿発見隊事業経費 ・日野の今を記録し伝
	都支出金				
	使用料・手数料等(受益者負担額)	2,163,870	1,967,070	1,506,734	
	その他特定財源		1,000,000	623,370	
一般財源		323,212,943	312,342,400	294,756,930	
総事業費		325,376,813	315,309,470	301,293,553	
当該事業に要する 職員の業務量(人)		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成21年度課の職員数 (課長・臨時職員除く)
		25.4	24.3	23.5	38.5

4. 指標・コスト

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ (当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など)

区 分	活動量を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	成人貸出数	冊	1,290,000	1,295,000	1,293,000	20年度ベース	0%
実績値（B1）		冊	1,092,764	1,188,313	1,261,851	20年度ベース	6%
達成度（C1=B1／A1×100）		％	85	92	98	市民1人当たりのサービス経費（円）	
単位コスト	事業単価	円	298	265	239	事業費	1,802

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅱ (当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など)

区 分	活動量を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A2）	成人登録率	％	25.00	25.00	25.00	20年度へ－	0％
実績値（B2）		％	20.81	21.30	23.03	20年度へ－	8％
達成度（C2＝B2／A2×100）		％	83	85	92		
単位コスト	事業単価	円	—	—	—		

成果指標(アウトカム)目標・実績 (当該事業の目的としている成果指標の目標や実績を数値で表します)

区 分	成果を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（D）	利用者満足度				80	20年度ベース	
実績値（E）					92	20年度ベース	
達成度（F＝E／D×100）		％			115		
単位コスト	事業単価	円					

5. 参考基準・数値

文部科学省基準・図書館専門委員会参考数値

○成人に対するサービスの充実に資するため、科学技術の進展や産業構造・労働市場の変化等に的確に対応し、就職、転職、職業能力開発、日常の仕事等のための資料及び情報の収集・提供に努めるものとする。

○高齢者に対するサービスの充実に資するため、高齢者に配慮した構造の施設の整備とともに、大活字本、拡大読書器などの資料や機器・機材の整備・充実に努めるものとする。また、関係機関・団体と連携を図りながら、図書館利用の際の介助、対面朗読、宅配サービス等きめ細かな図書館サービスの提供に努めるものとする。

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☒ 大きな効果があった ☐ 限定的な効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☒ 効率が良い ☐ やや効率が悪い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☒ 拡大・充実 ☐ 見直して拡大・充実 ☐ 維持・継続 ☐ 見直し
	評価意見等	・利用増により、成人貸出数が対前年度比で6%増加した。成人登録率が昨年度と比べ1.73ポイント上昇した。 ・日野宿発見隊事業やひの写真散歩事業などにより、市民とともに歩む図書館を実践した。 ・書庫収蔵図書選別事業を、国の緊急雇用創出事業臨時特例補助金により行うことができた。
次年度以降の取組み		・資料の充実に図り、資料の貸出や資料相談、参考調査に応える。 ・環境・子育て・食育などの課題やさまざまなテーマ展示を行い、多様な資料の活かし方を示す。 ・地域、施設の特性や他機関との連携で、各館が特定課題に取り組み、全体のサービス向上を図る。 ・ボランティアなど、図書館運営に関わる仕組みを検討する。 ・子連れや高齢者が利用しやすく、快適な滞在性の高い環境整備を進める。

図書館事業評価表 21年度

事業No.	3
事業担当係	業務係
記入者氏名	田中卓也

1. 取組事業名

2010/9/13 10:36

取組事業名 (図書館基本計画から)	すべての利用者への基本的サービスの一層の向上を図ります (障害者サービス)	事業開始年度	昭和 48 年度
----------------------	--	--------	----------------

2. 取組事業の概要

取組事業の概要（事業の対象者、内容を市民にも分かるように簡潔明解に記載）

事業の内容	「図書館基本計画」に基づき、1. 新しい技術・機器などを取り入れ、容易で効率的に資料・情報を利用できるようにする。2. 改修等の機会に、既存施設・設備のバリアフリー化を実現する。3. 点字講習やパソコン講習をさらに充実させる。4. 市政情報の点字版・録音版化を進める。5. 病院への図書館サービスを進める。
-------	---

事業目的（当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか）

テープ録音に代わる、DAISY図書（デジタル録音図書）やパソコンの活用など、新しい技術・機器などを取り入れ、効率的に資料・情報利用できる体制を整える。点字・大活字本の提供を行い、特に市政情報点字版・録音版化を進め、利用できる環境を確保する。そのために、全庁的な提供体制の確立を図る。病院の入院患者へのリクエスト資料の配本や、団体貸出により通院・入院患者が資料を利用できるように努める。障害のある人々に、点字講習・パソコン講習を充実させ、自ら資料・情報を利用できるように援助する。

21年度の事業目標（どのような目標を設定したのか）	21年度の事業成果（当該年度の実績数値など）
1. 宅配、対面朗読などにより、障害者が利用できる資料を提供をする。 2. 録音図書（テープ、DAISY）を新規作成する。劣化しているテープのDAISY化を行う。 3. 音訳者講習会を行い、音訳技能向上を図る。 4. 子どもの学びを援助し、点字を通して障害というものを学ぶ機会を増やすため、出前点字授業を行う。 5. 障害者への点字講習・パソコン講習を実施し、自ら資料・情報を利用できるよう援助を行う。	1. 障害者へのサービス ・ 障害者サービス登録者数…個人154人 団体7 ・ 音訳点訳者…音訳者40人 点訳者12人 ・ 宅配サービス…利用者数…66人 307回 ・ 点字図書作成枚数…4212枚 ・ 対面朗読…175件 525時間 2. 録音図書作成 テープ…20タイトル DAISY…27タイトル 3. 音訳者講習会（中級）…全3回 受講者数30人 4. 点字授業（1クラス2時間）…5校 18クラス 5. 点字指導…5人 57.5時間 パソコン指導…12人 323時間

事業の課題・問題（事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します）

- ・ 視覚障害者の利用が中心となっている面が多いので、今後は高齢者や障害のある児童へのサービスの拡充とさらに充実したサービスの提供を行っていく。
- ・ DAISY化促進
- ・ 点訳者育成

3. 事業費の推移（円）

項目	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成21年度事業費の 決算の内訳
支出				・ 嘱託職員報酬 ・ 音訳者講習会講師謝礼 ・ 資料変換者謝礼 ・ 点訳システム借上料 ・ 消耗品
事業費	3,249,905	3,454,295	3,463,142	
職員人件費（1人888万円）	21,312,000	21,312,000	17,760,000	
収入				
国支出金	0	0	0	
都支出金	0	0	0	
使用料・手数料等（受益者負担額）	0	0	0	
その他特定財源	0	0	0	
一般財源	24,561,905	24,766,295	21,223,142	
総事業費	24,561,905	24,766,295	21,223,142	
当該事業に要する 職員の業務量（人）	平成19年度 2.4	平成20年度 2.4	平成21年度 2	平成21年度課の職員数 （課長・臨時職員除く） 38.5

4. 指標・コスト

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ (当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など)

区 分	活動量を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	障害者サービス登録者数	人	140	144	155	20年度ベース	8％
実績値（B1）		人	140	153	154	20年度ベース	1％
達成度（C1＝B1／A1×100）		％	100	106	99	市民1人当たりのサービス経費（円）	
単位コスト	事業単価	円	175,442	161,871	137,813	事業費	121

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅱ (当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など)

区 分	活動量を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目 標 値（A2）	録音図書作成 タイトル数	タイトル 数	22	21	30	20年度ベ-ス	43%
実 績 値（B2）		タイトル 数	18	33	47	20年度ベ-ス	42%
達成度（C2=B2／A2×100）		％	82	157	157		
単位コスト	事業単価		—	—	—		

成果指標(アウトカム)目標・実績 (当該事業の目的としている成果指標の目標や実績を数値で表します)

区 分	成果を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（D）		枚				20年度へ－ス	
実績値（E）		貸出				20年度へ－ス	
達成度（F＝E／D×100）		％					
単位コスト	事業単価	円					

5. 参考基準・数値

文部科学省基準・図書館専門委員会参考数値

○障害者に対するサービスの充実に資するため、障害のある利用者に配慮した構造の施設の整備とともに、点字資料、録音資料、手話や字幕入りの映像資料の整備・充実、資料利用を可能にする機器・機材の整備・充実に努めるものとする。また関係機関・団体と連携をはかりながら手話などによる良好なコミュニケーションの確保に努めたり、図書館利用の際の介助、対面朗読、宅配サービス等きめ細かな図書館サービスの提供に努めるものとする。

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☒ 大きな効果があった
		☐ 限定的な効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☐ 効率が良い
		☒ やや効率が悪い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☒ 拡大・充実 ☐ 見直して拡大・充実
		☐ 維持・継続 ☐ 見直し
	評価意見等	・障害者サービス登録者が昨年度と比べ数字でみると1人増加した。(登録…4人・解除…3人 解除理由は転居・その他(病状の変化)) ・障害者サービスの利用者登録及び一部資料の電算化で業務改善を行い効率化を進めた。今後も電算化を進めていく。 ・障害者への市政情報の提供として各課で予算計上してもらい、市議会議員選挙公報音訳作成・ごみゼロ推進課の広報エコー及びごみカレンダーの点字・音訳版作成、防災マップの点訳作成、日野市障害福祉計画DAISY作成等、市政情報の提供を進めた。 ・点字用郵便で対応できる郵便物に関しては点字用郵便で配送して効率化を進めた。
	次年度以降の取組み	・録音資料のDAISY化を進める。 ・障害者サービス資料の電算化を行い、事業の効率性の向上を図る。 ・市政情報点字版・録音版化を進め、障害を持った方でも市政情報を利用できる環境を確保する。

図書館事業評価表 21年度

事業No.	4
事業担当係	庶務受入係
記入者氏名	飯倉 直子

1. 取組事業名

2010/9/13 10:38

取組事業名 (図書館基本計画から)	資料の選択・収集及び資料提供を核とする図書館の基本を大切にします	事業開始年度	昭和 40	年度
----------------------	----------------------------------	--------	----------	----

2. 取組事業の概要

取組事業の概要（事業の対象者、内容を市民にも分かるように簡潔明解に記載）

事業の内容	「図書館基本計画」に基づき、適切な資料の選択・収集に努める。 ・図書・雑誌…①市民の地域活動・生活・仕事・余暇の充実に役立つ資料を収集、②各分野の実務者向け専門書や大学生向け教養書・専門書の収集、③各分野の基本的資料が直接手にとれる開架スペースを確保 ・視聴覚資料…①各分野の基本的資料、地域活動での利用を考慮して収集（媒体変化の動向を把握） ・電子資料…①インターネット閲覧端末や公衆無線LANの設置をPR、②有料オンラインDBの導入を拡充 ・資料保存……①日野市に関わる資料の収集と永久保存、②次世代に伝えるべき基本的資料の保存、③書庫の確保、④都内公共図書館との資料保存の連携 ・情報公開……①資料の収集方針・選択基準・除籍基準を明文化し公開
-------	---

事業目的（当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか）

- ・市民の現在及び将来の利用に応え、図書館として揃えるべき資料を効果的かつ効率的に収集し、提供する。
- ・図書館利用の障害を取り除く。
- ・インターネット情報・商用データベースを充実させ、市民の情報格差の解消を図る。

21年度の事業目標（どのような目標を設定したのか）

21年度の事業成果（当該年度の実績数値など）

- ①中央館および各分館蔵書担当者による本の選択会議を週に1回行い、適切な資料選択・収集を行う。
- ②購入雑誌の見直しを行う。
- ③外国語資料の選択・収集を行う。
- ④視聴覚資料（CD）の選択・収集を行う。
- ⑤有料オンラインデータベースの導入拡充および利用者開放検討。
- ⑥地域資料の網羅的収集。
- ⑦選択・収集方針・基準の明確化。

- ①図書受入…35,974冊（うち購入30,678冊）
（除籍…47,157冊／蔵書…738,003冊）
- ②購入雑誌…497タイトル
- ③外国語資料受入…80冊（うち購入80冊）
- ④CD受入…107点（うち購入98点）
- ⑤有料オンラインデータベース…6種類
*2010年4月リース契約更新に際し、利用者開放に対応できるプリンタ兼用コピー機導入（中央・市政）
- ⑥市政図書室受入地域資料…2,022冊（図書のみ）
- ⑦「日野市立図書館資料収集方針」を策定、公開。

事業の課題・問題（事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します）

- ・資料費が減少する中、市民の要求に応えられるよう、資料の選択により精査が必要となっている。
- ・新たな形態の資料であるインターネット情報・商用データベースの充実が遅れている。
- ・資料保存のために必要な書庫の確保が不十分である。

3. 事業費の推移（円）

項 目	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成21年度事業費の 決算の内訳
支出				
事業費	73,948,486	70,162,408	68,069,088	
職員人件費（1人888万円）	27,528,000	19,536,000	19,536,000	
収入				
国支出金				
都支出金				
使用料・手数料等(受益者負担額)				
その他特定財源				
一般財源	101,476,486	89,698,408	87,605,088	
総事業費	101,476,486	89,698,408	87,605,088	・嘱託職員報酬 ・図書費 ・視聴覚資料費 ・新聞、雑誌、追録、マイクロ（消耗品費） ・新刊出版情報（MARC）作成委託料 ・データベース使用料

当該事業に要する
職員の業務量（人）

平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成21年度課の職員数 （課長・臨時職員除く）
3.1	2.2	2.2	38.5

4. 指標・コスト

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ (当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など)

区 分	活動量を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目 標 値（A1）	受入図書冊数	冊	40,000	40,000	36,717	20年度ベース	-8%
実 績 値（B1）		冊	42,506	40,797	35,974	20年度ベース	-12%
達成度（C1=B1/A1×100）		％	106	102	98	市民1人当たりのサービス経費（円）	
単位コスト	事業単価	円	2,387	2,199	2,435	事業費	501

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅱ (当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など)

区 分	活動量を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A2）	購入図書タイトル数	点	20,000	20,000	18,000	20年度ベース	-10%
実績値（B2）		点	21,137	19,964	19,197	20年度ベース	-4%
達成度（C2=B2／A2×100）		％	106	100	107		
単位コスト	事業単価	円	4,801	4,493	4,563		

成果指標(アウトカム)目標・実績 (当該事業の目的としている成果指標の目標や実績を数値で表します)

区 分	成果を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（D）	利用者満足度				80	20年度へ－ス	
実績値（E）					78	20年度へ－ス	
達成度（F＝E／D×100）		％			98		
単位コスト	事業単価	円					

5. 参考基準・数値

文部科学省基準・図書館専門委員会参考数値

・住民の要求に応えるため、新刊図書及び雑誌の迅速な確保並びに他の図書館との連携・協力により図書館の機能を充分発揮できる種類及び量の資料の整備に努めるものとする。また、地域内の郷土資料及び行政資料、新聞の全国紙及び主要な地方紙等多様な資料の整備に努めるものとする。

・多様な種類・内容の視聴覚資料の収集に努めるものとする。

・電子資料の作成、収集及び提供並びに外部情報の入手に関するサービス等に努めるものとする。

* (人口10~30万人) 「蔵書冊数」 547,353冊 / 「開架冊数(内数)」 335,203冊 / 「開架における新規図書」 10.90%
「視聴覚資料点数」 18,809点 / 「年間購入雑誌数」 615冊

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☐ 限定的な効果があった	☒ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☐ やや効率が悪い	☒ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☒ 拡大・充実 ☐ 維持・継続	☐ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	評価意見等	・受入冊数・購入タイトル数は、資料費減額に合わせて目標を下げた。冊数の減少はやむをえないものの、タイトル数をできる限り確保することで、市民の資料要求に応えるよう努めた。 ・週1回、本の選択委員会を行い、市民の読書活動に応えられる図書の収集に努めた。 ・「日野市立図書館資料収集方針」を明文化し、ホームページ等で公開した。	
次年度以降の取組み		・「図書館基本計画」に基づき、引き続き適切な資料の選択・収集を行う。 ・資料費が減少する中、選書のさらなる精査と複本数の調整等を行い、市民の読書活動に応えられる、各分野の質の高い図書の収集に努める。 ・雑誌購入タイトル数の維持を図る。 ・視聴覚資料のさらなる収集に努める。 ・有料オンラインデータベースの利用者公開を行う。	

図書館事業評価表

21年度

事業No.	5
事業担当係	庶務整理係
記入者氏名	強矢 秀夫

1. 取組事業名

2010/9/13 10:39

取組事業名 (図書館基本計画から)	時代に合わせて既存施設の改修を進めます	事業開始年度	平成 19年度
----------------------	---------------------	--------	------------

2. 取組事業の概要

事業の内容	「図書館基本計画」の第1章現状の項では、市民アンケートの分析結果として、「うるおいと憩いのある空間づくり」と「各種公共施設・商業施設との複合化による利便性」が挙げられ、現場の課題としても、「施設配置」「中央・高幡図書館の老朽化」「駐車場の確保」「各分館の課題」も指摘されている。このことから、市民が「子どもと高齢者を中心とした場の提供」や「書庫、公文書館機能を有した地域の情報拠点としての利便性の高い施設」を求めていることが読み取れる。そのために、第4章部門別計画2)施設計画の章で「三つの手法による新中央図書館」「各分館ごとの計画」「移動図書館車」の3つに分けて計画を立案している。しかし市の財政状況を考慮すれば、新施設の建設や大規模の改修は望めない現状であることから、当面は施設の修繕と小規模改善を中心に取り組む。
-------	---

事業目的 (当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか)	新中央図書館構想として、①新たに建設、②現施設をリニューアルして規模拡大、③豊田南口に建設予定の複合施設に図書館機能を付加して現施設と一体的運営、の3案を掲げているが、当面は現中央図書館と分館・移動図書館車による運営とし、施設設備の計画的改修により、市民が安全で快適に利用できる図書館を目指す。
---	---

21年度の事業目標 (どのような目標を設定したのか)	21年度の事業成果 (当該年度の実績数値など)
①平山季重ふれあい館の利用者対象の駐車場の開設を検討する。 ②一時休館中の百草台児童図書館のあり方を「図書館基本計画」に基づき検討する。 ③中央図書館と高幡図書館は将来の改修を念頭に置いた小規模修繕を実施する。 ④日野・百草・多摩平・市政図書館(室)については現状を維持しつつも、利用者の利便性を高めるための工夫をする。	①平成21年1月に平山地区センター跡地に仮設の臨時駐車場(11台分)を開設した。 ②百草台児童図書館の役割をもぐさだい児童館に引き継ぐ方向で廃止した。 ③中央図書館は、漏水対策として緊急に地下水道・ガス管の新設修繕を実施した。また冷温水器、浄化槽、1階トイレの修繕を行った。高幡図書館は、1階トイレと自動ドア、冷温水器エアフィルターを修繕した。 ④百草図書館はトイレの漏水、空調機を修繕し、平山季重ふれあい館の窓口照明、返本ポスト、空調機、多摩平の椅子とドア等の小規模修繕を実施した。

事業の課題・問題 (事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します)
「図書館基本計画」で取り上げられている図書館施設のうち、複合施設内の図書館として多摩平図書館と平山図書館がほぼ目標に近い形で実現できた。しかし、中央図書館、高幡図書館、日野図書館、百草図書館、市政図書室はいずれも施設面での課題が山積されている。百草台児童図書館の廃止を受けて、移動図書館車の活用、万願寺図書館の新設等、市内の図書館施設全体の整備について、総合的に見直しが必要な状況にある。

3. 事業費の推移 (円)

項 目	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成21年度事業費の 決算の内訳
支出				
事業費	10,857,000	2,676,000	5,057,000	中央図書館 水道・ガス 冷温水器 トイレ
職員人件費 (1人888万円)	4,440,000	4,440,000	4,440,000	高幡図書館 1階トイレ 自動ドア
収入				
国支出金				百草図書館 空調機
都支出金				トイレ漏水 平山季重
使用料・手数料等(受益者負担額)				ふれあい館 照明 返
その他特定財源				本ポスト 空調機
一般財源	15,297,000	7,116,000	9,497,000	多摩平図書館 椅子
総事業費	15,297,000	7,116,000	9,497,000	ドア
当該事業に要する 職員の業務量 (人)	平成19年度 0.5	平成20年度 0.5	平成21年度 0.5	平成21年度課の職員数 (課長・臨時職員除く) 38.5

4. 指標・コスト

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ (当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など)

区 分	活動量を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	修繕料	円	5,000,000	5,000,000	5,000,000	20年度ベース	0％
実績値（B1）		円	2,676,000	3,030,000	5,057,000	20年度ベース	67％
達成度（C1＝B1／A1×100）		％	54	61	101	市民1人当たりのサービス経費（円）	
単位コスト	事業単価	円	—	—	—	事業費	54

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅱ (当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など)

区 分	活動量を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A2）	大規模改修・新設館（車）数	館	9.00	9.00	8.00	20年度 ^へ -λ	-11%
実績値（B2）		館	1.00	3.00	1.00	20年度 ^へ -λ	-67%
達成度（C2=B2／A2×100）		％	11	33	13		
単位コスト	事業単価	円	—	—	—		

成果指標(アウトカム)目標・実績 (当該事業の目的としている成果指標の目標や実績を数値で表します)

区 分	成果を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（D）					80	20年度ベース	
実績値（E）					74	20年度ベース	
達成度（F＝E／D×100）		％			93		
単位コスト	事業単価	円					

5. 参考基準・数値

文部科学省基準・図書館専門委員会参考数値

○本基準に示す図書館サービスの水準を達成するため、開架・閲覧、収蔵、レファレンス・サービス、集会・展示、情報機器・視聴覚機器、事務管理などに必要な施設・設備を確保するよう努めるとともに、利用者に応じて、児童・青少年、高齢者及び障害者等に対するサービスに必要な施設・設備を確保するよう努めるものとする。

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☒ 限定的な効果があった	☐ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☒ やや効率が悪い	☐ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☒ 拡大・充実 ☐ 維持・継続	☐ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	評価意見等	・財政的理由などにより、老朽化した施設設備の改修が進んでいない。 ・中央図書館の地下の水道修繕を緊急に予算化して実施した。 ・予算の範囲内で各分館の小規模修繕を実施した。	
	次年度以降の取組み	・緊急を要する施設設備の改修と修繕計画の作成を行うとともに、耐震診断の実施を要望する。 ・施設修繕と並行して、利用者の利便性を高めるための新たなサービスと居場所作りを検討する。	

図書館事業評価表

21年度

事業No.	6
事業担当係	京王線沿線7市・協力担当
記入者氏名	中山秀一・遠藤修次

1. 取組事業名

2010/9/13 10:39

取組事業名 (図書館基本計画から)	関係機関との連携・協力の強化を図ります	事業開始年度	昭和40年度
----------------------	---------------------	--------	--------

2. 取組事業の概要

取組事業の概要（事業の対象者、内容を市民にも分かるように簡潔明解に記載）

事業の内容	「図書館基本計画」に基づき、他市や都内の図書館との連携・協力を行う。 ・平成20年4月から開始した京王線沿線七市図書館連携事業により、八王子市・府中市・調布市・町田市・多摩市・稲城市在住の市民への資料貸出を行う。 ・日野市立図書館では所蔵していない資料を、都立図書館や他の市区町村図書館、国立国会図書館等から借用して市民に提供するリクエストサービスを行う。 ・市民の多岐にわたる資料要求、知的向上への意欲に応えるため、公共図書館間だけでなく大学図書館とも連携を図り、相互に資料貸借やレファレンスを行う。
-------	--

事業目的（当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか）

各市・各機関とも限られた図書予算のなかで、資料の提供を行っているため相互に資料を融通しあうことで、効率的な資料提供を行う。また、図書館連携により、行政境の市民の図書館利用を促進する。

21年度の事業目標（どのような目標を設定したのか）	21年度の事業成果（当該年度の実績数値など）
1. 京王線沿線七市図書館連携事業 ①図書館の外側に歩行者を対象としたポスター掲示・利用案内の配布を行い広報に努める。 ②新規利用者登録時に事業の紹介として各市での登録や利用方法、各市図書館の特徴説明を行う。 2. リクエストサービス ①相互貸借により、リクエストされた資料をより迅速に提供し、利用者の満足度を上げる。 ②市民の多様な調査・研究に応えるため、利用可能な多くの機関と連携し、より適切な資料を収集し提供する。	1. 京王線沿線七市図書館連携事業他市民の利用（）内は日野市民の他市利用 登録者数 853人(992人) 利用者数 16,282人 貸出冊数 44,177冊(74,162冊) 2. リクエストサービス リクエスト総数 427,530冊（所蔵・購入数 418,950冊 借用数 8,580冊） （借用先内訳 都立図書館 4,790冊 多摩地区 3,287冊 23区 380冊 国会・県立図書館他 123冊） 他自治体への貸出 9,701冊（貸出先内訳 多摩地区 8,955冊 23区 734冊 都外他 12冊）

事業の課題・問題（事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します）

1. 京王線沿線七市図書館連携事業 京王線沿線7市との連携事業が浸透するにしがたい、貸出の冊数が増加している。21年度は新規登録者が減少したが、貸出冊数が増加した。利用者の定着が行われているが、さらなる登録者の拡大が必要。 2. リクエストサービス ・借用・貸出ともに増加した。借用8,580冊(前年度7,981冊)7.5%増、貸出9,701冊(前年度5,504冊)76%増)。借用は利用者の要求により迅速に応えた結果ではあるが、図書費縮小の影響が出ている。また、貸出の増加は、都立図書館改革による貸出制限拡大の影響がかなり大きい。都立図書館改革の再見直しを要望していく必要がある。 ・市民の多様な資料要求に応えるため、都外公立図書館とも相互貸借を行っているが、このサービスの充実には郵送料の予算確保が必要である。

3. 事業費の推移（円）

項 目	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成21年度事業費の内訳
支出				・嘱託職員報酬
事業費	2,168,015	3,666,180	3,829,133	
職員人件費（1人888万円）	19,536,000	15,984,000	15,096,000	
収入				
国支出金				
都支出金				
使用料・手数料等(受益者負担額)				
その他特定財源				
一般財源	21,704,015	19,650,180	18,925,133	
総事業費	21,704,015	19,650,180	18,925,133	
当該事業に要する職員の業務量（人）	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成21年度課の職員数（課長・臨時職員除く）
	2.2	1.8	1.7	38.5

4. 指標・コスト

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ (当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など)

区 分	活動量を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	他市民への資料貸出冊数	冊	35,569	33,502	36,270	20年度ベース	8%
実績値（B1）		冊	41,334	35,911	44,177	20年度ベース	23%
達成度（C1＝B1／A1×100）		％	116	107	122	市民1人当たりのサービス経費（円）	
単位コスト	事業単価	円	525	547	428	事業費	108

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅱ (当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など)

区 分	活動量を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A2）	借受冊数	冊	7,789	8,565	7,981	20年度へ-ス	-7%
実績値（B2）		冊	8,481	7,981	8,580	20年度へ-ス	8%
達成度（C2=B2／A2×100）		％	109	93	108		
単位コスト	事業単価	円	2,559	2,462	2,206		

成果指標(アウトカム)目標・実績 (当該事業の目的としている成果指標の目標や実績を数値で表します)

区 分	成果を計るための指標	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（D）	利用者満足度					20年度 ^へ －	
実績値（E）						20年度 ^へ －	
達成度（F＝E／D×100）		％					
単位コスト	事業単価	円					

5. 参考基準・数値

文部科学省基準・図書館専門委員会参考数値

○公立図書館は、資料及び情報の充実に努めるとともに、それぞれの状況に応じ、高度化・多様化する住民の要求に対応するため、資料や情報の相互利用等の協力活動の積極的な実施に努めるものとする。その際、公立図書館相互の連携(複数の市町村による共同事業を含む。)のみならず、学校図書館、大学図書館等の館種の異なる図書館や公民館、博物館等の社会教育施設、官公署、民間の調査研究施設等との連携にも努めるものとする。

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☐ 限定的な効果があった	☒ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☐ やや効率が悪い	☒ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 維持・継続	☒ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	評価意見等	・京王線沿線七市図書館連携事業の開始により、本市図書館から離れた行政境周辺市民などの利便性が上がったと同時に、利用の定着がみられた。 ・日野市立図書館の他機関への貸出数が伸びたことで、多摩地域の市町村立図書館のサービスに貢献できた。	
次年度以降の取組み		1. 京王線沿線七市図書館連携事業 ・利用者へのさらなる広報。 ・貸出冊数制限5冊を見直すかの検討。 2. リクエストサービス ・市内の大学図書館だけでなく、近隣市の大学図書館との連携を広めていく。 ・市町村立図書館長協議会等を通じ、都立図書館改革の見直しを要望する。 ・相互貸借を活用し、確実な資料提供に努める。	

図書館事業評価表 21年度

事業No.

7

取組事業名

2010/9/13 10:33

取組事業名 (図書館基本計画から)	各館での取り組み	事業開始年度	昭和 40 年度
----------------------	----------	--------	----------------

1. 中央図書館

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	資料貸出冊	冊	437,380	447,290	363,470	20年度ベース	-19%
実績値（B1）	数	冊	383,200	339,299	343,714	20年度ベース	1%
達成度（C1=B1/A1×100）		％	88	76	95		
21年度の事業目標（どのような目標を設定したのか）				21年度の事業成果（当該年度の実績数値など）			
①市民に役立つ資料・情報コーナーの設置 ②保存資料を活用できるようにする。				①テーマによる資料展示８回と通年で障害者サービスのPR展示をした。他に生活支援やインフルエンザ関連のタイムリーな展示をした。②箱詰めのまま利用できなかった図書（約３万冊）を含めて、保存資料の選別を行い、既存書庫に収容し、活用できるようにした。（２１年１０月から緊急雇用創出事業臨時特例補助金の交付を受け、専従職員を得られたことで大幅に進捗、達成した。）			

2. 高幡図書館

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	資料貸出冊	冊	339,340	349,820	338,350	20年度ベ-ス	-3%
実績値（B1）	数	冊	299,699	315,846	326,110	20年度ベ-ス	3%
達成度（C1=B1/A1×100）		％	88	90	96	市民1人当たりの	
21年度の事業目標（どのような目標を設定したのか）				21年度の事業成果（当該年度の実績数値など）			
①地域資料・行政資料の利用向上 ②外国語資料の収集				①地域・行政資料のコーナーを2棚増した為、資料が探しやすくなった。②初年度約95,000円を資料購入にあて、ペーパーバック版ノヴェル（英文、邦訳有）を80冊購入			

3. 日野図書館

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	資料貸出冊	冊	236,680	241,290	244,730	20年度ベース	1％
実績値（B1）	数	冊	206,713	228,456	240,541	20年度ベース	5％
達成度（C1＝B1／A1×100）		％	87	95	98	市民1人当たりの	
21年度の事業目標（どのような目標を設定したのか）				21年度の事業成果（当該年度の実績数値など）			
日野宿発見隊の活動を充実させ、とくに今年は学校との連携に力をいれる。10月に日野一中開校記念授業で日野宿発見隊から10名を派遣します。				日野宿発見隊との共同は学校連携でも大きく進みました。10月日野一中開校記念授業では発見隊員を10名派遣し、3年生5クラスすべての授業を受けもちました。また日野一小的の研究授業「地域を生かした授業」においても一年間通して、日野図書館と発見隊が関わって成果をあげました。			

4. 多摩平図書館

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計 するための指	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目 標 値（A1）	資料貸出冊 数	冊	421,110	464,360	468,060	20年度ベース	1%
実 績 値（B1）		冊	397,819	436,927	472,363	20年度ベース	8%
達成度（C1=B1／A1×100）		％	94	94	101	市民1人当たりの サービス経費（円）	
21年度の事業目標（どのような目標を設定したのか）				21年度の事業成果（当該年度の実績数値など）			
ヤングに対するサービス、中でもヤングスクラム事業を成功させる。				講演会（2回開催）、図書リスト作成、展示会を行い、読書活動の推進強化となった。			

5. 平山図書館

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	資料貸出冊	冊	97,100	43,720	145,700	20年度ベース	233%
実績値（B1）	数	冊	37,454	136,009	148,236	20年度ベース	9%
達成度（C1=B1/A1×100）		%	39	311	102	市民1人当たりの	
21年度の事業目標（どのような目標を設定したのか）				21年度の事業成果（当該年度の実績数値など）			
高齢者に適した図書館資料の充実				他館よりの大活字本の移管を常時受け入れられる体制が完了した。高齢者の健康等に関する図書の購入を強く意識して行った。			

6. 百草図書館

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	資料貸出冊	冊	144,790	144,580	139,110	20年度ベース	-4%
実績値（B1）	数	冊	123,862	129,858	140,324	20年度ベース	8%
達成度（C1=B1/A1×100）		％	86	90	101	市民1人当たりの	
21年度の事業目標（どのような目標を設定したのか）				21年度の事業成果（当該年度の実績数値など）			
図書館の業務内容を1階出入り口に、大きく看板表示を行い気軽に入れるようにする。 「図書館利用案内」を自由に持っていけるように設置する。				配布用利用案内が大量に利用され（約300部）、それに伴い年度後半に利用者登録も増加したかに見られた。しかし、新規登録者数は前年度比較で微減だった（564人→552人）。			

7. 移動図書館

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	資料貸出冊	冊	20,870	21,130	21,440	20年度ベース	1%
実績値（B1）	数	冊	18,106	20,017	23,828	20年度ベース	19%
達成度（C1=B1/A1×100）		％	87	95	111	市民1人当たりの	
21年度の事業目標（どのような目標を設定したのか）				21年度の事業成果（当該年度の実績数値など）			
市のイベントに参加し、図書館利用の拡大につながるような活動を行う。				・イベント参加 5月4日～5月6日 多摩テック「はたらくのりもの大集合展」でひまわり号を展示。 5月10日 ひの新選組まつりにて資料の展示・貸出、写真撮影を行う。利用登録1人・利用者4人・貸出12冊・写真約100人。 11月1日 健康フェアにて 資料の展示・貸出、切り紙工作コーナーの設置、写真撮影を行う。 貸出59冊 返却6冊 切り紙参加者47人 写真51人 ・個人貸出 利用者4487人 巡回402回 ・団体貸出 利用団体46 貸出冊数17,168冊 巡回133回			

《評価のまとめ》

No.	取組事業名	自己評価			評価意見等	次年度以降の取組み
		事業目的 に対する 効果	事業の有 効性	今後の方向 性		
1	すべての利用者への基本的なサービスの一層の向上を図ります（児童・青少年サービス）	大きな効果があった	効率がよい	拡大・充実	- 貸出は、目標を達成したが、児童登録率が前年度と比べ 0.53 ポイント減少した。 - 日野ヤングスタッフ☆ドリームスクラム 2009 に取り組み成果をあげた（文科省 100% 補助）。	「日野市立図書館基本計画」や「日野市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き子ども・青少年の読書活動を図書館が中心となって推進する。 - 平成 22 年度に策定する「第 2 次子ども読書活動推進計画」を基に、更に子どもの読書活動を推進する。また、計画の推進状況の把握、分析、検討をする。 - 学校搬送による図書館と学校のネットワークを更に充実させて、学校図書館支援センター設立に向けた準備をする。
2	同（成人・高齢者サービス）	大きな効果があった	効率がよい	拡大・充実	- 成人貸出数が対前年度比で 6% 増加した。成人登録率が昨年度と比べ 1.73 ポイント上昇した。 - 日野宿発見隊やひの写真散歩などにより、市民とともに歩む図書館を実践した。 - 書庫収蔵図書選別事業を、国の緊急雇用創出事業で行うことができた（100% 補助）。	- 資料の充実を図り、資料の貸出や相談、参考調査に応える。 - 環境・子育て・食育などの課題やさまざまなテーマ展示を行い、多様な資料の活かし方を示す。 - 地域・施設の特性や他機関との連携で、各館が特定課題に取り組み、全体のサービス向上を図る。 - ボランティアなど、市民が図書館運営に関われる仕組みを検討する。 - 子連れや高齢者も利用しやすい、快適な滞在性の高い環境整備を進める。 - 高齢者の利用を促進するサービスを検討する。
3	同（障害者サービス）	大きな効果があった	やや効率が悪い	拡大・充実	- 障害者サービス登録者は新規 4 人、転居等減 3 人で純増 1 人だった。 - 障害者サービス貸出資料の電算化が進められたが、完了していない。	- 録音資料の DAISY 化を進める。 - 障害者サービス資料の電算化を行い、事業の効率性の向上を図る。 - 市政情報点字版・録音版化を進め、障害を持った方でも市政情報を利用できる環境を整備する。
4	資料の選択・収集及び資料提供を核とする図書館の基本を大切にします	大きな効果があった	効率がよい	拡大・充実	- 受入冊数は、資料費減額で目標を下げたが、購入タイトル数の確保を図った。 - 収集方針を明文化し、ホームページ等に公開した。	「図書館基本計画」に基づき、引き続き適切な資料の選択・収集を行う。 - 資料費が減少する中、選書のさらなる精査と複本数の調整等を行い、各分野の質の高い図書の収集に努め、市民の読書活動に応える。 - 雑誌購入タイトル数の維持を図る。 - 視聴覚資料のさらなる収集に努める。 - 有料オンラインデータベースの利用者公開を行う。
5	時代に合わせて既存施設の改修を進めます	限定的な効果があった	やや効率が悪い	拡大・充実	- 財政的理由などにより、老朽化した施設設備の改修が進んでいない。 - 中央図書館地下の水道修繕を緊急予算化で実施した。 - 予算の範囲内で各分館の小規模修繕を実施した。	- 緊急を要する施設設備の改修と修繕計画の作成を行うとともに、耐震診断の実施を要望する。 - 施設修繕と並行して、利用者の利便性を高めるための新たなサービスと居場所作りを検討する。

No.	取組事業名	自己評価			評価意見等	次年度以降の取組み
		事業目的 に対する 効果	事業の有 効性	今後の方向 性		
6	関係機関との連携・協力の強化を図ります	効果があ った	効率がよ い	拡大・充実	・京王線沿線七市図書館連携事業の開始により、本市図書館から離れた行政境周辺市民などの利便性が上がった。 ・相互貸借において多摩地域への日野市からの貸出数が伸び、図書館サービス向上に貢献できた。 ・書庫収蔵図書選別事業で、多摩地域での2冊保存の取り組みを進めることができた。	1. 京王線沿線七市図書館連携事業 ・利用者へのさらなる広報。 ・貸出冊数制限5冊を見直すかの検討。 2. リクエストサービス ・市内の大学図書館だけでなく、近隣市の大学図書館との連携を広める。 ・市町村立図書館長協議会を通じ、都立図書館改革の見直しを要望する。 ・相互貸借を活用し、確実な資料提供に努める。
7	各館での取り組み	大きな効果があ った	効率がよ い	拡大・充実	・貸出件数で多摩平図書館、平山図書館、百草図書館、移動図書館は目標を達成したが、中央図書館、高幡図書館、日野図書館は目標達成には至らなかった。しかし、全館で前年実績を上回った。 ・テーマ展示や高幡図書館の外国語図書購入、日野宿発見隊等、移動図書館のイベント参加、各館の個別目標は達成できた。	1. 中央図書館 ① 飲食のできる休憩コーナーを設け、滞在性を高める。 ② テーマ展示（2ヶ月毎）を行い、書庫の資料も積極的に活用する。 ③ オンラインデータベースの利用者公開を行い、情報提供の機能を強化する。 ④ 係内の連絡・情報共有を行い、仕事の連携を密にする。 2. 高幡図書館 ・（書庫の整備）木製書架を新たに設置し、棚数を増やし、使いやすい書庫を構成する。 3. 日野図書館 ・日野宿発見隊によるまちかど写真館をさらに充実・拡大に努める。日野宿（日野本町）に100点以上の古い写真を一斉に展示する。 4. 多摩平図書館 ・「第2次日野市子ども読書活動推進計画」で、多摩平図書館は、青少年担当となっているため、ヤングコーナーの充実と併せ、活動を行う。 5. 平山図書館 ・（滞在性の向上）ブラウジングコーナーを含む1階エリアについて、空調や室温管理に十分に気を配り、「快適な滞在」を促進します。 6. 百草図書館 ・前年度、未実施の南側窓ガラスに大きな名称表示を行う（「日野市立百草図書館」を白色のカッティングシートで行う。） 正面玄関前脇の壁に空きが残っているので、利用案内を追加表示し、再度、新規登録者の増加を図る。 7. 移動図書館 ・箱詰めになっている百草台児童図書館の資料を有効に活用できるよう処理する ・図書館の利用拡大につながる活動がないか、検討する。

《21 年度の特長》

平成 21 年度、市民一人当たり貸出数は 9.82 件で、「望ましい基準」の 10 件（日野市の人口規模に対応する指数）にわずかに達しませんでした。が、貸出数は、児童、成人とも前年度を上回りました。これは、新しく大きくなった多摩平図書館と平山図書館の利用が順調に伸びていることの影響が大きいと思いますが、各館で独自目標を設定して利用の増大を進め、「日野市子ども読書活動推進計画」に基づき、乳幼児から青少年までの読書の推進に努めたこと。また、図書費が大幅に減額されるなか、受入冊数は減少したものの、購入タイトル数の維持を図り、本のリクエストに都内図書館の相互貸借も活用し資料提供に努めた地道な取り組みによるものと考えます。今年度も、昨年度に続いて図書費が削減されるなか、「望ましい基準」の指数に到達することを目指します。

また、21 年度特筆したいところとして、文部科学省の「子ども読書地域スクラム事業」を受託した、「日野ヤングスタッフ☆ドリームスクラム 2009 事業」は、読書離れが懸念される青少年自らが「薦めたい本の書評・リスト作成・展示」や、2 回の「作家の講演会」の企画・運営を行い、青少年の読書環境を推進するうえで大いに希望をいだかせるものになりました。財源も 100%国の委託金で効率的でした。

平成 18 年に日野図書館の呼びかけで発足した「日野宿発見隊」は、地域の歴史や自然を知るために「まち歩き」や昔の写真の収集とまちかどでの展示やお年寄りによる「昔語り」をはじめ、いろいろな事業に取り組みました。商店会・自治会・小中学校との地域連携や郷土資料館、公民館をはじめ企画調整課・産業振興課・緑と清流課・子育て課などとの庁内協力も広がり、1 月には JR 東日本日野駅と連携した日野駅開業 120 周年記念イベントを行い、4 千名もの市内外からの観光客を集めました。

国の緊急雇用創出事業臨時特例補助金を受けて行った書庫収蔵図書選別事業は、100%国の補助金で人材と物品の確保ができ、2 年余り死蔵だった旧平山図書館書庫収蔵資料の整理が完了し、保存資料の活用が改善されたとともに、複本保存を行い多摩地域市町村での資料の共同保存への取り組みにつながるものでした。

そのほか、日野の今を写真で記録・公開する「ひの写真散歩事業」も市内図書館5館で写真展を開催し、市民参画を進めました。また、食育、子育て支援などの図書展示や、移動図書館の新選組まつり、健康フェスタへの参加等との市内協力も進めました。

6 今後の課題

この評価を基に21年度の成果をあげた取組みを継続するとともに、「図書館基本計画」に拠り、今後の課題の解決に取り組みます。

資料を提供する図書館の役割から、サービスを維持・発展させるには豊富で魅力ある資料が必要です。来館者調査においても図書館に対する重要度の一位は「本や雑誌の量」(44%)、二位は「本や雑誌の質」(36%)です。「望ましい基準」でも新規図書の割合が指標とされています。年々減少傾向にある図書費の確保が必要です。同時に魅力ある資料や日野市に関する資料を永く保存・提供するには資料の保存スペースの確保への取組みも必要です。

子どもたちへの読書の推進は、図書館の大きな役割です、21年度で終了した「日野市子ども読書活動推進計画」の第2次計画を現在策定中で、これに基づき、子どもへの読書活動をさらに推進します。

中央図書館地下の漏水を緊急に予算化して修繕を行いました。老朽化した中央図書館や高幡図書館などの施設・設備の改修をし、耐震化やバリアフリー化を図り、滞在性の向上についても取り組んでいきます。

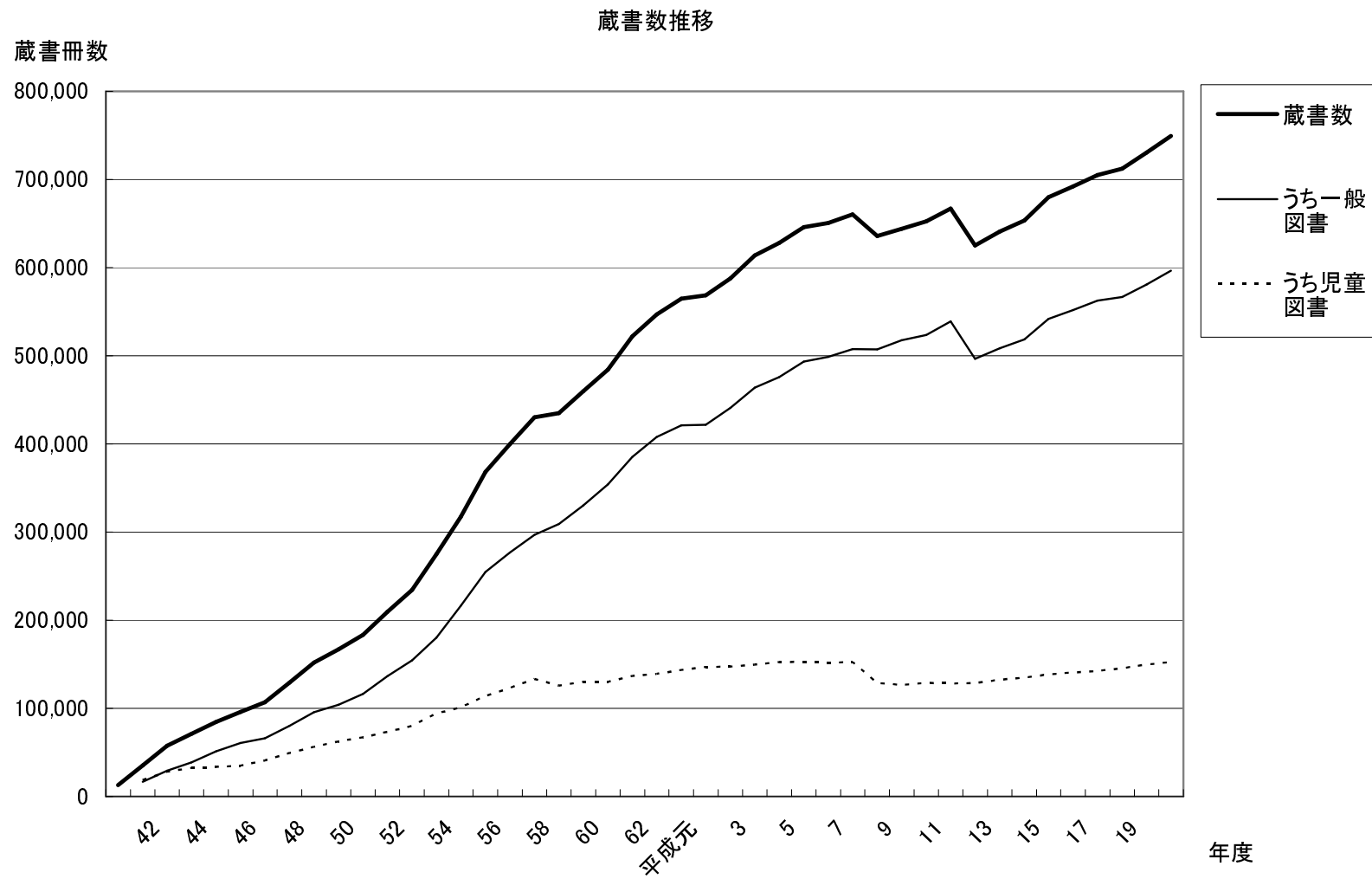
音訳・点訳などの有償ボランティアをはじめ、日野宿発見隊やひの写真散歩や図書館業務を応援するボランティア活動の機会を拡げ、市民と共に歩む図書館を目指します。

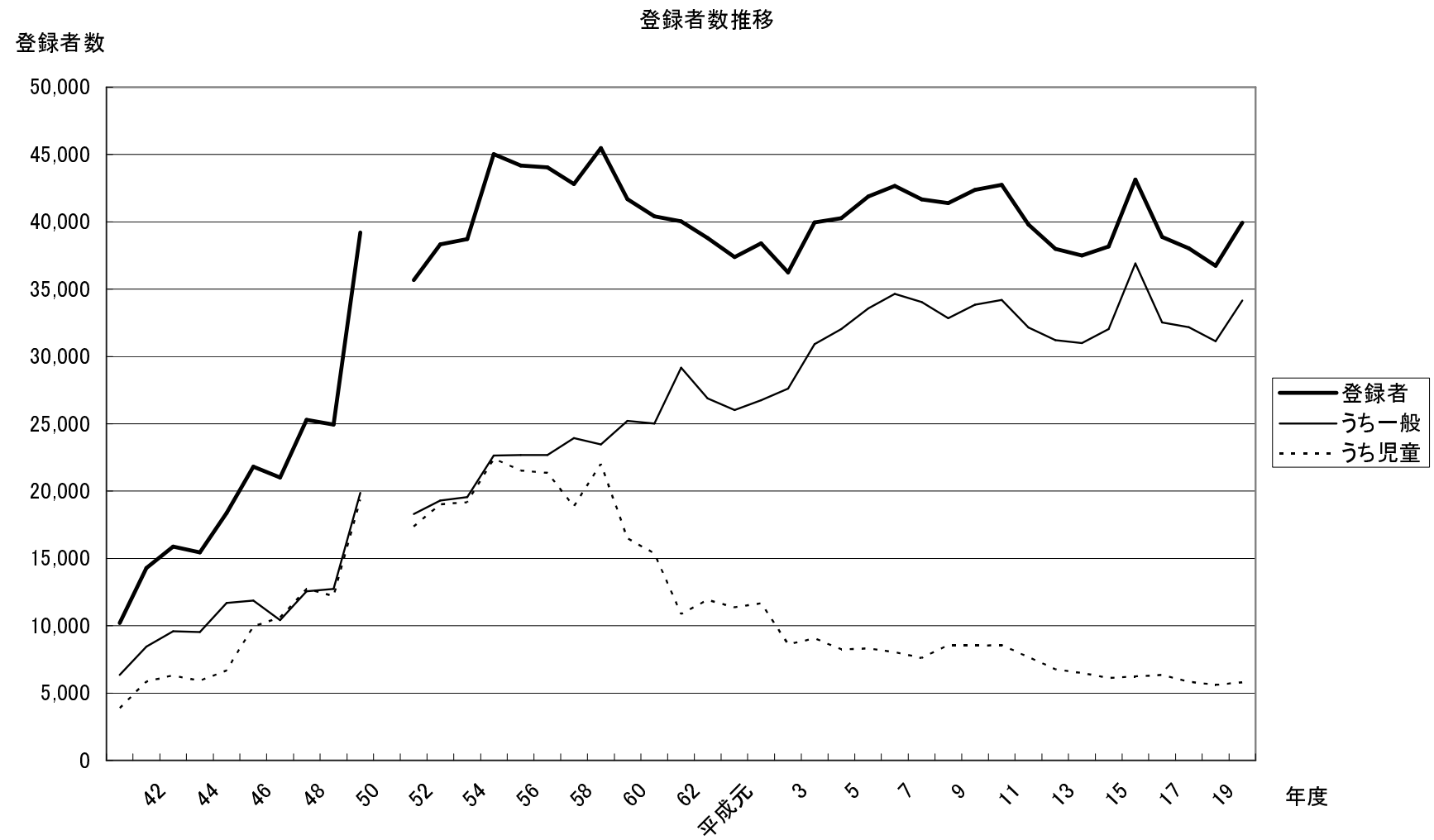
この評価について、前回の評価表の中で課題となった成果指標（アウトカム）については、事業の2、4、5は来館者調査により把握できましたが、事業内容により評価が困難なものについては、指標自体を見直す必要があります。その他、図書館協議会から意見をいただき、来年度の評価方法の見直しを行います。

「貸出活動上位の公立図書館における整備状況」の数値

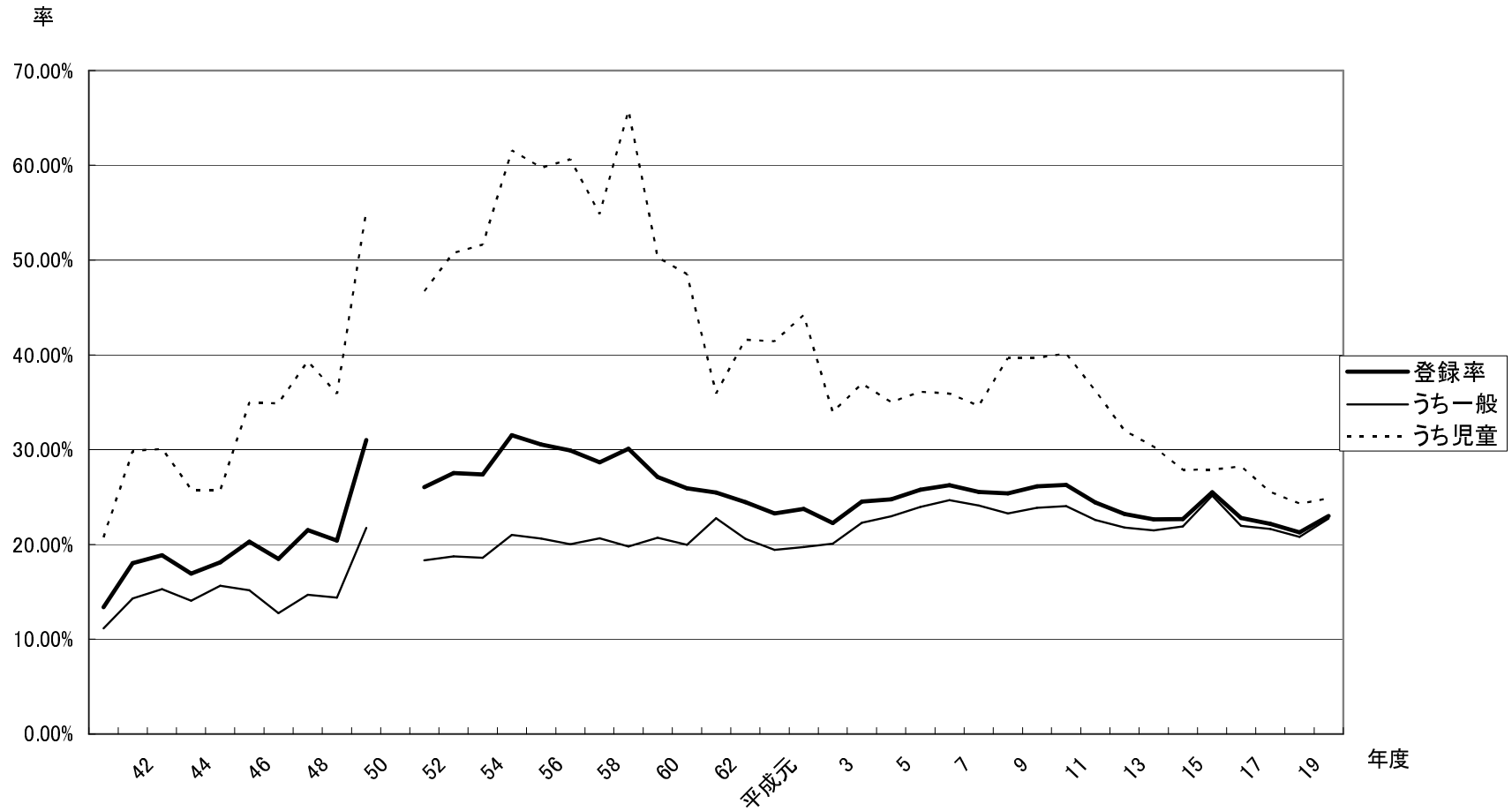
人口段階	10～30万人(A)	日野 20年度(B)	日野 19年度	指数比 (B/A)	注記
平均人口	140,800	173,481	172,549	123%	
延床面積 m ²	5,437	6,305	6,305	116%	
蔵書冊数	547,353	749,186	730,564	137%	
開架冊数 (内数)	335,203	560,000	560,000	167%	概数
開架に占める新規図書比	10.90%	7.29%	7.60%	67%	
視聴覚資料点数	18,809	3,796	3,684	20%	
年間購入雑誌数	615	959	989	156%	
資料費 (千円)	74,629	67,836	77,658	91%	
人口一人概算(円)	550	391	450	71%	
人口一人年間貸出点数	10	9.33	8.57	93%	
職員数	53	79.4	81.5	150%	非正規職員含む
うち有資格者	25	30	30	120%	

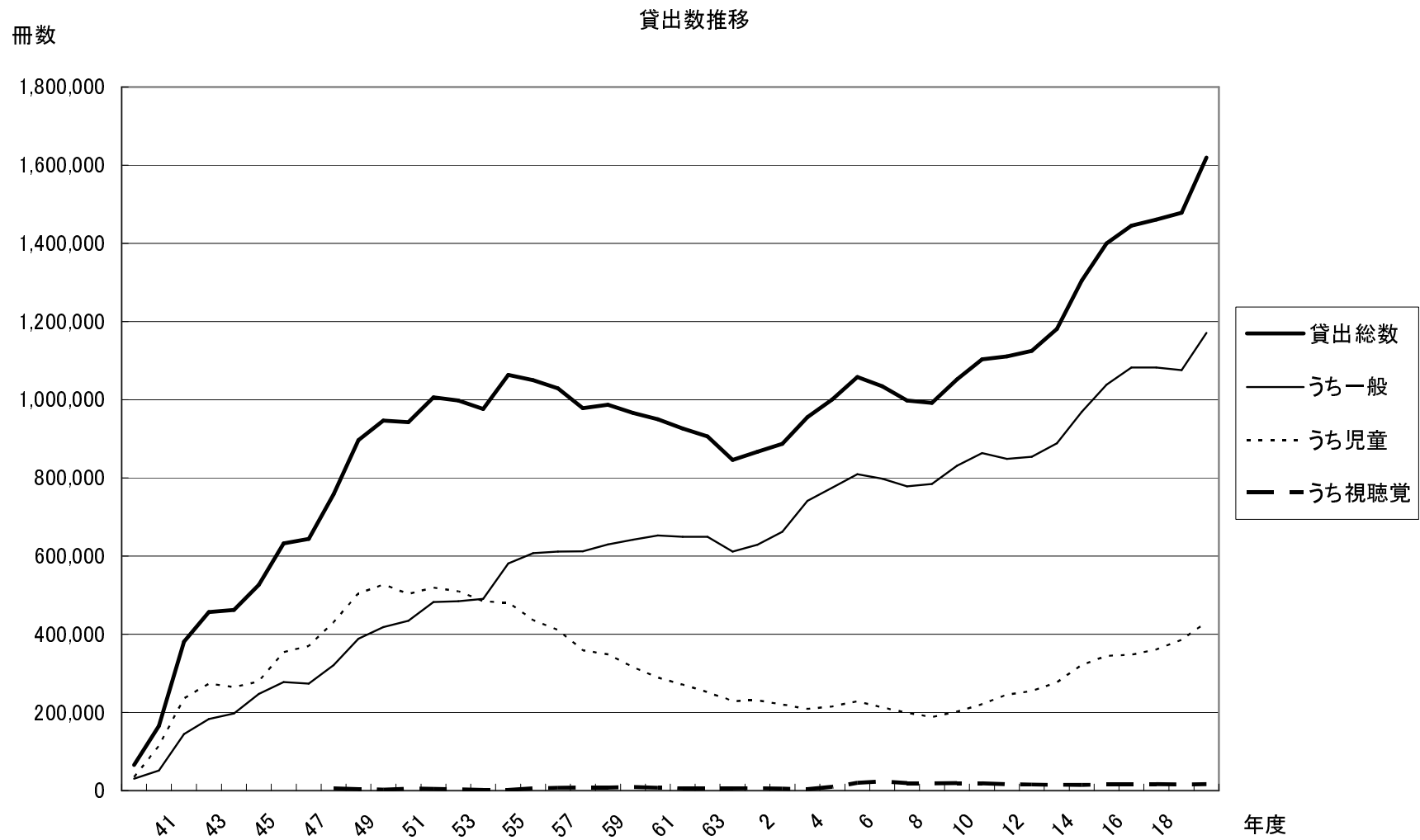
「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（図書館法第18条の規定に基づき、平成13年7月18日告示（文部科学省告示第132号））の告示にあたり、平成12年12月「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準について（報告）」生涯学習審議会社会教育分科審議会計画部会図書館専門委員会の参考資料として示された。

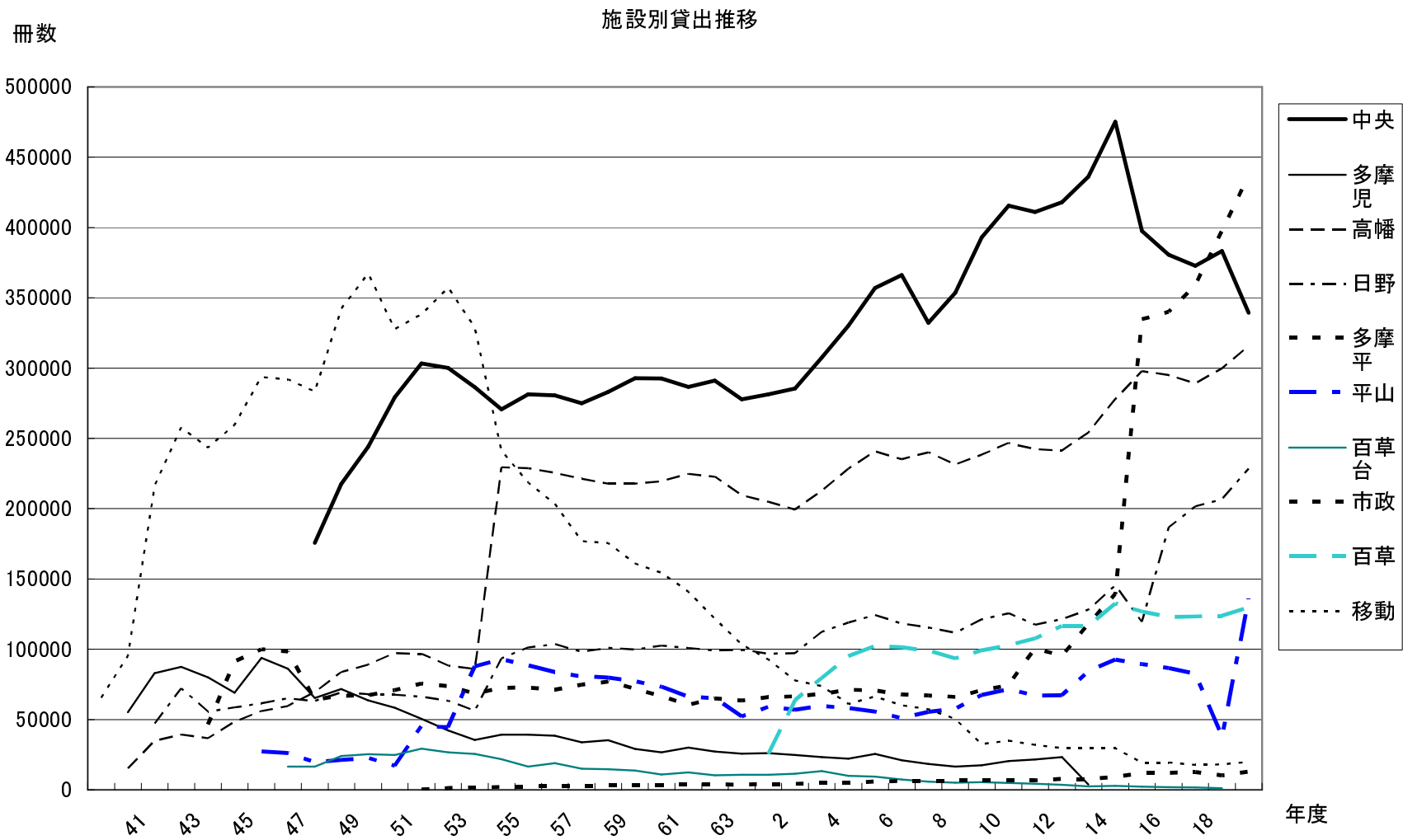


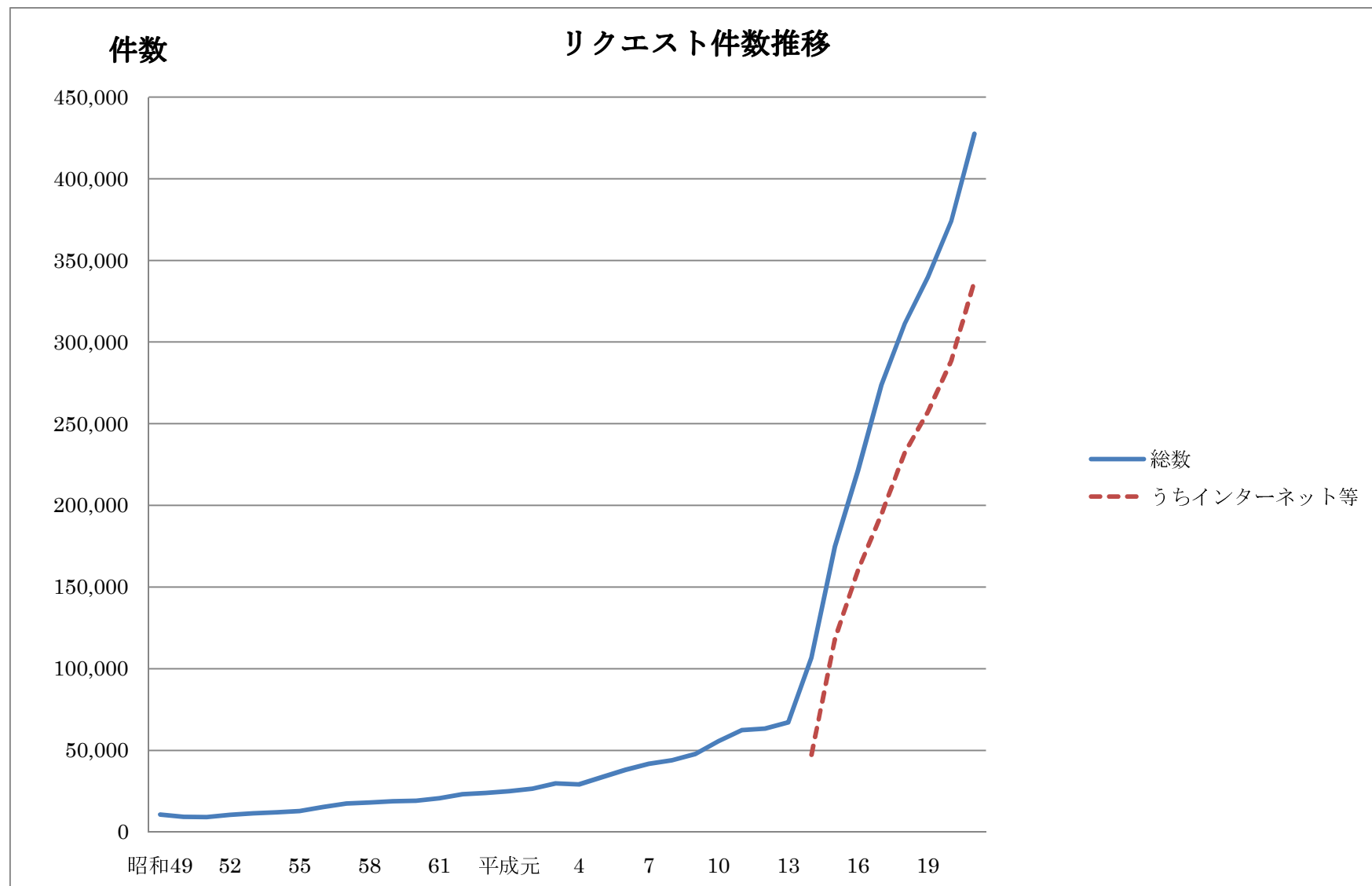


登録率推移









日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日

(目的)

第1条 この要綱は、図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の3に規定する、図書館の運営の状況に関する評価等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市立図書館（以下「図書館」という。）は、毎年1回、図書館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 図書館は、図書館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 図書館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 図書館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 図書館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、図書館庶務整理係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、図書館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

《図書館協議会委員名簿》

委員長	大杉 宏光	社会教育委員
副委員長	紺野 順子	実践女子大学講師
委員	阪田 幸子	夢が丘小学校校長
委員	坪島 尚	利用者
委員	長谷川 成海	日野市 PTA 協議会副会長
委員	平井 周子	日野市国際交流協会理事
委員	森 公子	利用者
委員	山口 久夫	利用者

平成 22 年度 日野市立図書館の
運営の状況に関する評価書

(平成 21 年度事業)

くらしの中に図書館を

—市民に役立ち、共に歩む図書館—

平成 22 年 9 月

日野市立図書館

〒191-0053 東京都日野市豊田二丁目 49 番地

電話 042-586-0584

F A X 042-586-0579